

二子地区地域農業マスタープラン

市町村名	集落/地域名	当初作成年月	更新年月(1回目)	更新年月(9回目)	更新年月(10回目)	更新年月(11回目)	更新年月(12回目)
北上市	二子地区	平成24年12月	平成25年2月	平成29年2月	平成29年9月	平成30年2月	平成31年2月

1. 地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている/担い手はいるが十分ではない/担い手がいない

2. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	＜その他記載欄＞
担い手に集積・集約化する	○	畑地の耕作者、利用者が減少し、不作付地が増加しているため、その解消に向けた畑地の集積化を進めていく。
担い手の分散錯圖を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する		
耕作放棄地を解消する	○	
その他[右欄に自由に記載]	○	

3. 2についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	＜その他記載欄＞
地域の農地所有者は原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
農地をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他[右欄に自由に記載]		

4. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者のあり方)		コメント
取組事項	対応	
複合化	○	<p>＜現状＞</p> <p>この地区は、集落営農組織を母体とした法人と個人とが連携し、農地の集約化が行われています。地区内には、水稻、大豆、さといもによるブロックローテーションを導入して、農地の高度利用化が図られている圃場が広がっています。</p> <p>水稻の生産においては、減農薬・減化学肥料栽培の取組に加え、畜産農家がいることから、耕畜連携の取組である稲わらと堆きゅう肥の交換を積極的に行いながら、低コスト生産を進めています。大豆の作付についても、多収量・高品質生産の取組を推進し、収益性を高めた土地利用型農業を展開しています。また、二子さといもを始めとする園芸作物に取り組む複合経営体が多いです。</p> <p>畑においては、耕作者の減少により不作付地が顕在化してきています。</p> <p>＜今後の取組＞</p> <p>①今後もブロックローテーションに取り組み、農地の高度利用化を図りながら、農地の集積を促進します。</p> <p>②土地利用型作物においては、水稻については地域特別栽培米などの生産コストの低減を図った米づくりを推進し、大豆については、多収量・高品質生産の取組を継続することで、収益性の向上を図ります。</p> <p>③畜産と二子さといもについては、ブランド力強化の取組を推進し、生産者の農業所得の向上を目指します。</p> <p>④園芸品目については、農業者の仲間づくり等の取組を通じて、産地化を推進します。</p> <p>⑤まちおこしなどの地域行事を活用し、地場産品を使った料理や加工品を販売するなど6次産業化の取組を推進します。</p> <p>⑥上記①～④の取組を担保するため、個人経営体の後継者育成や新規就農者の確保・育成、集落営農法人についてはオペレーターの雇用・育成などの取組を研修や、政策等を活用しながら進めます。また、上記⑤においては農家女性の活力を活かした農村づくりを目指します。</p> <p>⑦担い手集積率8割を目指していく。</p>
6次産業化	○	
高付加価値化	○	
新規就農の促進	○	
その他[]		